



## 1. はじめに [ゴシック 9pt]

作品集は「作品論文」と「作品ムービー」で構成する。和文もしくは英文による原稿とする。採録後の校正は不可能であるから、誤字や脱字がないよう、特に念を入れて仕上げる。

「作品論文」は、標題、著者名、所属、要旨、図、表、注などを含め、刷り上がりを4頁か、6頁のいずれかとする。

「作品ムービー」は、表題、著者名、所属を示すタイトル頁を含め、その尺は3分以内とする。

表題は和文ならびに英文とする。特に、主題目は簡潔に、一見して研究論文の内容がよくわかるように工夫して記す。また、「……に関する研究(III)」などの研究の連続性を示すものは副題目にする。英文表題においても、「Study on ……」などとすることは避け具体的に表現する。作品名などの固有名詞を表題に加える場合は、固有名詞を先頭に置きその後ろに「:」をつける。固有名詞は和文、英文のどちらでもよい。

著者名は、作品のデザインプロセスに直接的に参加した者も記載する。共著者は非会員でも可とするが、会員/非会員を明記すること。尚、謝辞の中で挙げるのが適当と思われる者を共著者とするは避ける。また、社名や組織名のみで個人名のないものは受け付けない。[明朝 9pt]

## 2. 作品論文の表題・本文等の割付

### 2-1. 原稿フォーマット [ゴシック 9pt]

学会webサイトの投稿案内にある「原稿フォーマット」をダウンロードして利用し、[表題、著者名、所属、和文要旨、英文Summary]の割付を行う。

### 2-2. 要旨

要旨は、作品を発表する上での主張が的確に理解できるよう、平易な文で簡潔に記述する。英文Summaryはネイティブチェック等の校閲を経たものとする。

### 2-3. 区分

原稿は、原則として区分を設けて記述する。例えば、[はじめに、作品の内容とその価値、デザインのプロセスとその価値、主張と考察、おわりに、謝辞、注]など。

### 2-4. 章節の区分

原稿には、「大見出し・章」、「中見出し・節」、「小見出し・項」などを設け、それらを明瞭に区分する。章が変わる時には、1行あけて章に入る。なお、節、項が変わっても1行あけない。章は1.、2.、3. ……、節は1-1.、1-2.、1-3.、……の記号を用い、本文は改行する。項は(1)(2)(3)……の記号を用い、改行せずに1字あけて本文を続ける。さらに細分を要するときは、著者の分類に委ねる。



図2 図の説明文

### 2-5. カタカナ表記

一般に用いられる外国語の術語はカタカナ表記とする(例えば、industrial design → インダストリアルデザイン)。ただし、カタカナ表記することによって字義が不明確になるおそれのあるものはこの限りではない。なお、欧字のまま記す必要がある場合には、例えば、Morris, idea のように、半角文字にする。

### 2-6. 数字表記

数字は原則として算用数字を用い、例えば 表1、図2、30cm、7g、1kg、1,258、5時間、80円のように記す。数字は、1桁の場合には全角文字、2桁以上の場合には半角文字を用いる。年、月、日は、原則として算用数字を用いる。

### 注および参考文献

- 1) 注および参考文献は、通し番号とし、1)、2)のリストで表記する。また、本文中は当該事項の後に注番号を[注1]、[注 5~7]のように記す。注番号が文章の末尾に来る場合には句点の前に記す。
- 2) 参考文献は次のように記す。雑誌の場合は、著者：表題、雑誌名、巻、号、頁、年の順に記す。例えば、  
n) 山田太郎：シンボル・デザインの日本的特性、デザイン学研究、Vol. 45, No. 3, pp. 57-60, 1981  
n) Bohannon, P.: New Project for Industrial Design, Current Design, Vol.5, No.3, 1966 [英語表記のみの場合：Times 9pt]
- 3) 著書の場合は、著者：書名、発行所、頁、発行年の順にする。例えば、  
n) 日本富士雄：図説デザインの基礎、日本書房、pp. 55-2, 1971  
n) Leach, E.: Forms and Function, National Press, p.7, 1976
- 4) 翻訳本の場合には、著者、翻訳者：書名、発行所、頁、発行年の順に記す。例えば、  
n) ベルグ, A.、田中一郎訳：サインとシンボル、世界デザイン出版、p. 23, 1957  
n) Murdock, G., M.B.: Stage of Design, Univ. Press, pp.67-68, 1978